

経営比較分析表（令和6年度決算）

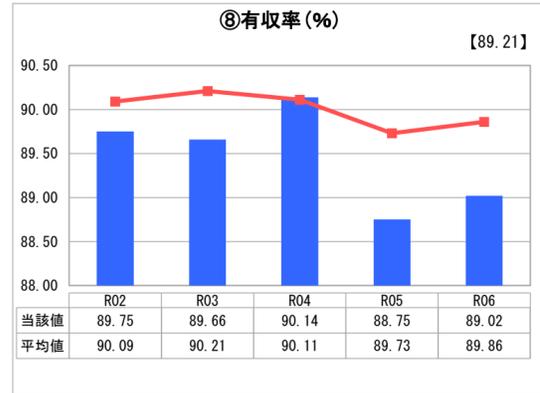
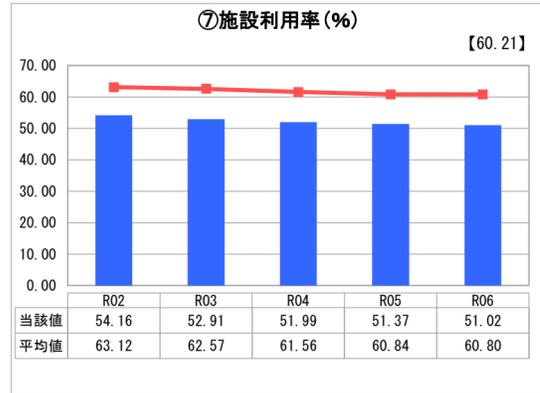
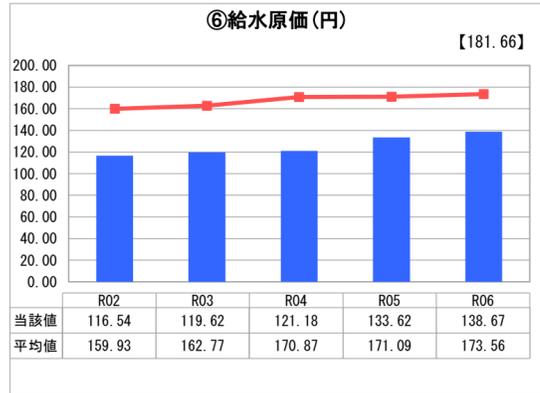
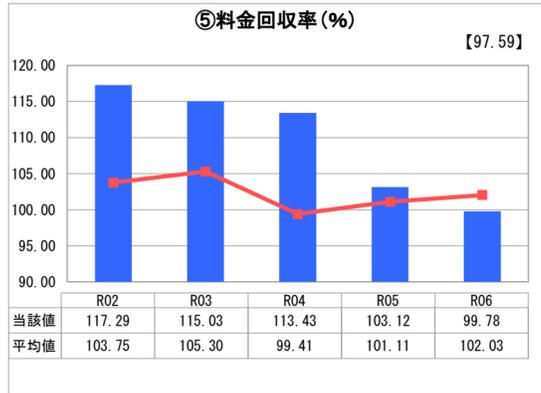
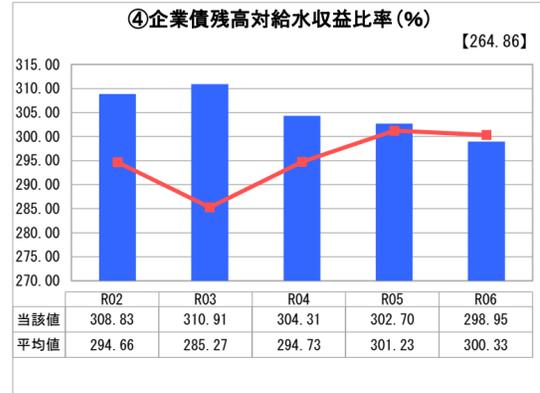
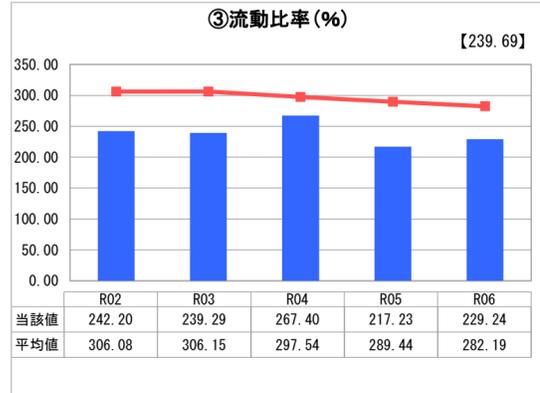
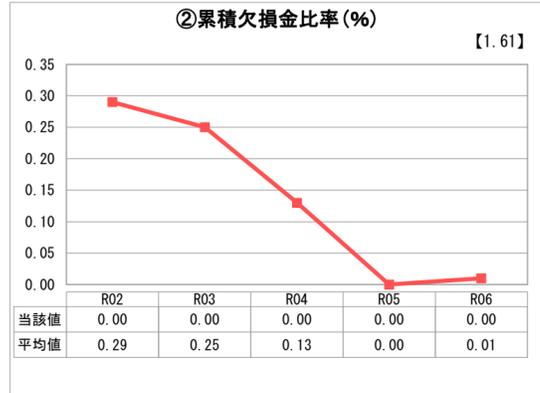
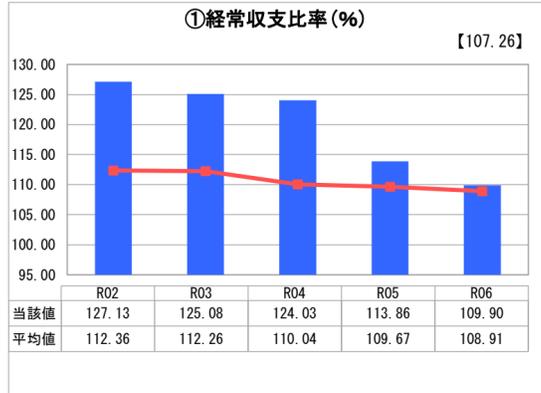
福井県 福井市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A2	自治体職員
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	69.18	98.02	2,255	

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
254,029	536.37	473.61
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
247,668	263.10	941.35

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	令和6年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

「①経常収支比率」は、100%以上を維持しており、健全な事業経営を行っている。

「②累積欠損金比率」は、0%であり、欠損金は発生していない。

「③流動比率」は、100%以上を維持しており、適正な支払能力を確保している。

「④企業債残高対給水収益比率」は、類似団体と同水準であるが、今後、投資に伴う企業債発行額の増加が見込まれるため、適正な企業債残高を維持して必要がある。

「⑤料金回収率」は、給水に係る収益の減少及び費用の増加により100%を下回っており、適切な料金水準の確保を図る必要がある。

「⑥給水原価」は、類似団体と比較して低く推移しており、有収水量1m³あたりの費用は低く抑えられている。

「⑦施設利用率」は、類似団体と比較して低く推移しており、施設規模の適正化を図っていく必要がある。

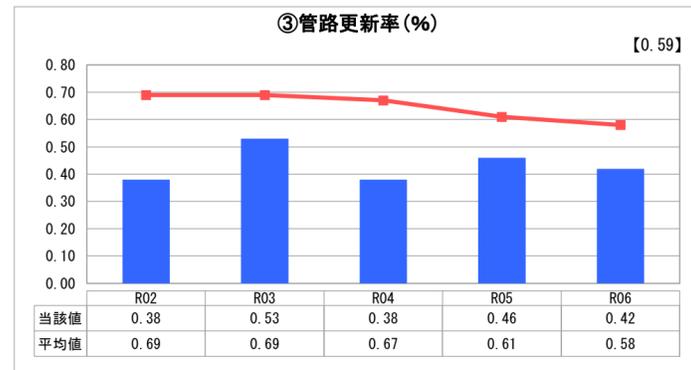
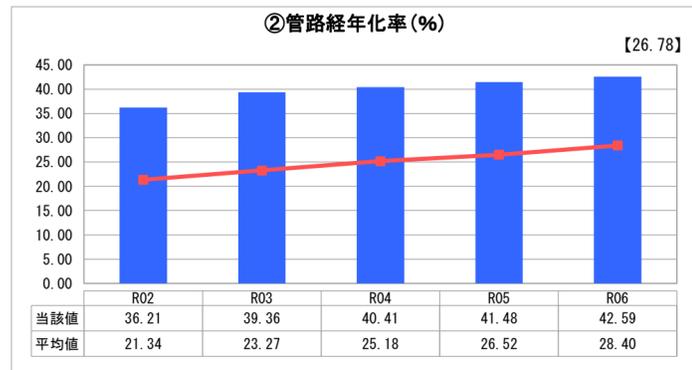
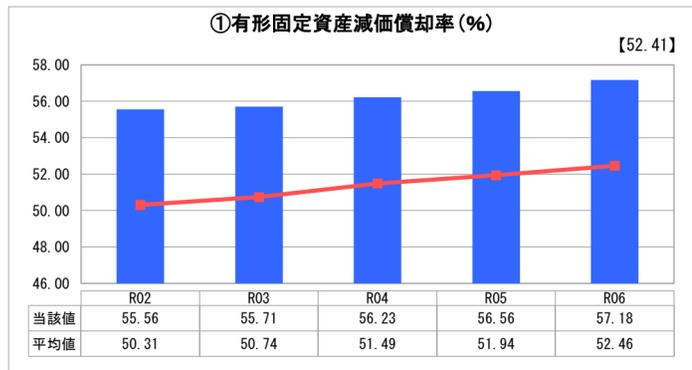
「⑧有収率」は、類似団体と比較して低く推移しており、漏水箇所の特定と管の修繕等を行い、改善に努めていく必要がある。

2. 老朽化の状況について

法定耐用年数を超過した資産を多く保有していることから、「①有形固定資産減価償却率」及び「②管路経年化率」は類似団体と比較して高く推移しており、老朽化が進んでいる状況である。

一方、「③管路更新率」は類似団体と比較して低く推移しており、引き続き、管路の重要度や優先度を判断し、計画的な更新を実施していく必要がある。

2. 老朽化の状況



全体総括

本市の水道事業は、大正13年に給水を開始して以来、100年以上が経過し、施設の老朽化が進んでいる状況にある。
今後も老朽化した施設の更新や耐震化に多額の費用を要する一方、給水収益は減少が見込まれ、経営環境は厳しさを増していくと考えられる。
こうした状況のなか、将来にわたり安定してサービスを提供するため、「福井市水道事業ビジョン2020」に基づき、計画的に更新を進めていくとともに、維持管理の効率化を図り、経営の健全化に努めていく必要がある。